

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄									備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更										
フリガナ	がくこほびん ニつががけん										
設置者	学校法人 新田塚学園										
フリガナ	フクイヨウカガクダクイン										
大学の名称	福井医療大学大学院 (Fukui Health Science University Graduate School)										
大学の位置	福井県福井市江上町55字鳥町13番1号										
大学の目的	高度な知識と技術を教授し、実践的な技術を身につけた専門職を育成し、あわせて地域に不可欠な大学として、地域住民の健康づくりのために支援できる人材を輩出することを目的とする。										
新設学部等の目的	保健医療学研究科では科学的根拠に基づいた医療および生活の支援を実践する能力、研究を通して培った科学的・論理的思考を活かし、新たな方向性を創造する研究力、さらに後進の育成を推進する教育力を持った、高度専門職業人の育成を目標とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		【基礎となる研究科等】 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (修士課程)  保健医療学部リハビリテーション学科及び看護学科  14条特例の実施	
	保健医療学研究科 [Graduate School of Health Science]  保健医療学専攻（博士後期課程） [Doctor Program in Health Science]  計	年	人	年次人	人	博士 (保健医療学) [Doctor of Philosophy in Health Sciences]	令和6年4月 第1年次	福井県福井市江上町55字鳥町13番1号			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		令和6年4月の保健医療学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程に名称変更する。									
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）		講義	演習	実験・実習	計	17単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		令和5年12月名称変更届出（予定）	
	新設分	保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等		
			人	人	人	人	人	人	人		
	既設分	保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	9	7	1	0	17	0	1		
			(9)	(7)	(1)	(0)	(17)	(0)	(1)		
計		9	7	1	0	17	0	1			
		(9)	(7)	(1)	(0)	(17)	(0)	(1)			
計		14	6	2	0	22	0	2			
		(14)	(6)	(2)	(0)	(22)	(0)	(2)			
合計		13	9	3	0	25	0	3			
		(13)	(9)	(3)	(0)	(25)	(0)	(3)			
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計				
	事務職員		人		人		人				
			10		2		12				
			(10)		(2)		(12)				
	技術職員		3		0		3				
		(3)		(0)		(3)					
図書館専門職員		1		1		2					
		(1)		(1)		(2)					
その他の職員		0		0		0					
		(0)		(0)		(0)					
計		14		3		17					
		(14)		(3)		(17)					

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積 14,599.00㎡  借用期間 H11.1.1～ 40年間				
	校 舎 敷 地	5,642.21㎡	0㎡	0㎡	5,642.21㎡					
	運 動 場 用 地	4,082.27㎡	0㎡	0㎡	4,082.27㎡					
	小 計	9,724.48㎡	0㎡	0㎡	9,724.48㎡					
	そ の 他	9,919.96㎡	0㎡	0㎡	9,919.96㎡					
合 計	19,644.44㎡	0㎡	0㎡	0㎡	19,644.44㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		14,850.82㎡ (14,850.82㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	14,850.82㎡ (14,850.82㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	19室	29室	25室	1室 (補助職員1人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体				
		保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)		29 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)	25,817 [484] (25,817 [484])	160 [32] (160 [32])	8 [8] (8 [8])	857 (857)	6,757 (6,757)	123 (123)			
	計	25,817 [484] (25,817 [484])	160 [32] (160 [32])	8 [8] (8 [8])	857 (857)	6,757 (6,757)	123 (123)			
図書館		面積	閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数	大学全体					
		1016.54㎡	104	50,000						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		1,140.00㎡	-			-				
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での 算出不能のため、 学部との合算
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
		図書購入費	14,379千円	14,029千円	14,029千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	設備購入費	5,860千円	2,000千円	2,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
保健医療学研究科保健医 療学専攻	800千円	600千円	600千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	福井医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 充足率	開設 年度	所 在 地	
	保健医療学部 リハビリテーション学科	年	人	年次 人	人	学士 (理学療法 学、作業療法 学、言語聴覚 学)	0.87 0.75	平成29 年度	福井県福井市江上 町 55字鳥町13番1号	
	看護学科 保健医療学専攻 (修士課程)	4	120	-	480	学士 (看護学)	1.12	平成29 年度		
附属施設の概要	法恩寺研修所：学生研修施設 所在地：福井県勝山市180字郡原1-30 設置年月：平成8年12月 規模：地上2階、地下1階、土地面積1,401㎡、建物面積359.67㎡ 最大利用者50名可能									

教 育 課 程 等 の 概 要															
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
共 通 科 目	保健医療学特論	1前	1			○			2						オムニバス
	生活支援リハビリテーション特論	1前	2			○			2	2	1				オムニバス
	研究デザイン特論	1前	2			○			1	1					兼1 オムニバス
	小計（3科目）	—	5	0	0	—			4	3	1	0	0	兼1	
専 門 科 目	医学的診断技術研究	1前		2		○			3						オムニバス
	ニューロリハビリテーション研究	1前		2		○			1	2					オムニバス
	生活支援研究	1前		2		○			3	1					オムニバス
	生活支援リハビリテーション特別研究	1～3通	10				○		8	5					
小計（4科目）	—	10	6	0	—			9	6	0	0	0	0		
合計（7科目）		—	15	6	0	—			9	7	1	0	0	兼1	
学位又は称号	博士（保健医療学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
共通科目 5単位 専門科目 12単位 合計 17単位以上を修得 博士論文が本学論文審査に合格すること								1 学年の学期区分			2 期				
								1 学期の授業期間			1 5 週				
								1 時限の授業時間			9 0 分				

教育課程等の概要														
（保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	倫理学特論	1前	2			○								兼1
	プロフェッショナルリズム特論	1前		1		○				1				
	コミュニケーション特論	1前		1		○					1			
	国際医療学演習	2前	2				○		1					
	研究方法論Ⅰ	1前	2			○				1				
	研究方法論Ⅱ	1後		1		○			1	1				オムニバス
	統計解析評価学特論	1後		2		○				1				
	教育学特論	1前	2			○								兼1
	教育実践学特論	2前		2		○								兼1
	専門職連携論	1後	1			○					1			オムニバス
小計（10科目）		—	9	7	0	—	—	—	2	2	2	0	0	兼2
専門科目	運動器リハビリテーション特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	運動器リハビリテーション特論演習Ⅰ	1後		2			○		1					
	運動器リハビリテーション特論Ⅱ	1前		2		○			1	1				オムニバス
	運動器リハビリテーション特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	神経系リハビリテーション特論Ⅰ	1前		2		○			3	2				オムニバス
	神経系リハビリテーション特論演習Ⅰ	1後		2			○		3	2				
	神経系リハビリテーション特論Ⅱ	1前		2		○			3					オムニバス
	神経系リハビリテーション特論演習Ⅱ	1後		2			○		4	2				
	健康生活論	1後		1		○			2		1			オムニバス
	生涯発達学特論	1後		1		○					1			
	健康教育特論	1後	1			○			1					
	健康政策論	1後	1			○			2					
	精神健康支援学特論	2前		2		○			1					
	健康生活支援特論Ⅰ	1前		2		○			3	1				オムニバス
	健康生活支援演習Ⅰ	1後		2			○		4	2				オムニバス
	健康生活支援特論Ⅱ	1前		2		○			2					オムニバス
	健康生活支援演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	特別研究	1～2通	10				○		13	4				
小計（18科目）		—	12	28	0	—	—	—	13	5	2	0	0	0
合計（28科目）		—	21	35	0	—	—	—	14	6	2	0	0	兼2
学位又は称号	修士（保健医療学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
共通科目 12単位 専門科目 22単位 合計 34単位以上を修得 修士論文が本学論文審査に合格すること						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要															
(保健医療学部リハビリテーション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教育科目	安全学	2前		2		○									兼1
	科学的思考の基礎	1前		2		○									兼1
	教育原理	1後		2		○									兼1
	教育方法論	1後		2		○			1						
	統計学	1前		2		○			1						
	情報科学	1前		2		○			1						
	人間工学	1後		2		○			1						
人間と生活	心理学	1前		2		○									兼1
	生命倫理	1前		2		○									兼1
	英語Ⅰ	1前	2				○		1						兼1
	英語Ⅱ	1後	2				○		1						兼1
	英語Ⅲ	2前		2			○								兼1
	英会話(医療系英会話)	1前・後		2			○		1						兼1
	スポーツ医学	2前		2		○			1						兼1
	スポーツ栄養学Ⅰ	2前		1		○									兼1
	体育Ⅰ	1前		1		○									兼1
体育Ⅱ	1前		1				○							兼1	
社会の理解	フレッシュャーズセミナーⅠ	1前	2			○			1						※演習
	フレッシュャーズセミナーⅡ	1前	2			○			1			3			オムニバス
	人間関係論	1後		2		○									兼1
	日本国憲法	1前		2		○									兼1
	コーチング論	1前		2		○									兼1 オムニバス
小計(21科目)		—	8	31	0	—			4	0	0	3	0	11	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	人体の発達と構造と機能及び心	解剖学総論	1前	2			○								兼1	オムニバス	
		解剖学演習Ⅰ	1前		2			○		1							
		解剖学演習Ⅱ	1前		2			○		1							
		解剖学演習Ⅲ	1後		2			○		1							
		生理学	1前	2				○							兼1		
		生理学演習	1後		1			○							兼1		
		運動学	1後		2			○		1	1						
		運動学演習(バイオメカニクス)	2前		1			○		1	2						
		人間発達学	1後	2				○					1				兼1
		促進	臨床心理学	3前	2			○									兼1
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の	内科学Ⅰ	2前	1			○								兼1			
内科学Ⅱ	2前	1				○		1						兼1			
臨床神経学	1後	1				○		1						兼1			
臨床神経学演習	2前		1				○		1					兼1			
整形外科	1後		1			○								兼1			
スポーツ整形外科	1後		1			○								兼1			
精神医学	1後		1			○								兼1			
病理学	1後	1				○								兼1			
リハビリテーション医学診断学	2前	1				○			1					兼1			
リハビリテーション医学治療学	2前		1			○			1					兼1			
臨床栄養学	2前		1			○								兼2			
薬理学	2前		1			○								兼1			
救急処置	1後		1			○					1			兼1			
シヨンの理念	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	1			○			1						兼1 兼1	
		保健医療論	1前	1			○			1							
		チーム医療論	3前	1				○									
		環境と健康	1前		1			○									
		ナラティブ概論	3前		1			○			1						
		社会保障制度	4前		1			○			1						
		スポーツ心理学	3前		1			○							兼1		
		スポーツ内科学	2前		1			○			1						
		トレーニング科学Ⅱ	1後		1			○							兼1		
		スポーツ栄養学Ⅱ	3前		1			○							兼1		
こころと言語の科学	耳鼻咽喉科学	形成外科学	2後		1		○					1			兼1	オムニバス ※演習	
		臨床歯科学	2前		1		○					1			兼1		
		発声発語系医学	1前		1			○			1		1				
		神経系医学	1後		2			○			1				兼1		
		聴覚系医学	1後		1			○							兼1		
		学習・認知心理学	3前		2			○							兼1		
		心理測定法	3前		1			○							兼1		
		言語学	1後		2			○				2					
		音声学	1前		2			○					1				
		音響学	1前		2			○									
言語発達学	1後		1			○			1		1			兼1			
	小計(45科目)	—	16	42	0	—	—	—	9	3	2	4	0	兼18			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 (理学療法学)	基礎理学療法学	基礎理学療法学	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
		運動発達学	2後		1		○					1					
		研究方法論	3前		1		○			1							
		研究方法論演習	3後		1			○		3	4	1	2				
		理学療法研究	4通		3			○		3	4	1	2				
	管理理学療法	理学療法概論	1前		1		○			1							
		理学療法基礎理論	2後		1		○				1						
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	1後		1		○			1							
		神経系検査法	1後・2前		2		○				1						
		運動器系検査法Ⅰ(関節可動域測定)	1後・2前		2		○				1						
		運動器系検査法Ⅱ(筋力測定)	1後・2前		2		○					1					
		運動・動作分析学	2前		1		○				1						
	理学療法治療学	基礎運動治療技術学	2前		1		○				1						
		運動器系理学療法学Ⅰ(骨折)	2後		1		○					1					
		運動器系理学療法学Ⅱ(スポーツ外傷)	2後		1		○				1						
		運動器系理学療法学Ⅲ(脊椎・関節障害)	2後		1		○				1						
		神経系理学療法学	3前		1		○						1				
		中枢神経系理学療法学Ⅰ(脳血管障害評価)	2後		1		○						1				
		中枢神経系理学療法学Ⅱ(脳血管障害治療)	3前		1		○						1				
		中枢神経系理学療法学Ⅲ(パーキンソン・失調症)	3前		1		○						1				
発達障害系理学療法学		3前		1		○											
発達障害系理学療法学演習		4前		1			○										
内部障害系理学療法学		3前		2		○							1				
内部障害系理学療法学演習		4前		1			○			1			1				
理学療法評価治療演習		2後		2			○			3	4	1	2				
物理療法学		3前		1		○					1						
物理療法学演習		3前		1			○				1						
日常生活活動評価学	1後・2前		1		○							1					
日常生活動作指導法	3前		1		○							1					
義肢・装具学	3前		2		○							1					
義肢・装具学演習	4前		1			○				1							
神経系理学療法治療技術	4前		1		○				1	1							
運動器系治療技術Ⅰ(運動機能障害の評価と治療)	3前		1		○				1								
運動器系治療技術Ⅱ(徒手理学療法)	4前		1		○				1								
地域理学療法	地域理学療法学	3前		2		○			1								
	生活環境整備学	3前		2		○						1					
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	1前・後		1					○	3	4	1	2				
	臨床見学実習Ⅱ	3後		1					○	3	4	1	2				
	臨床評価実習	2後		3					○	3	4	1	2				
	臨床実習Ⅰ	3後		7					○	3	4	1	2				
	臨床実習Ⅱ	4前		8					○	3	4	1	2				
目(理学療法学)	スポーツ社会経営学	3前			2									兼1			
	トレーニング科学Ⅰ	1前			1									兼1			
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2					1							
	予防とコンディショニング	2前・後			3			○		2							
	アスレティックリハビリテーションⅠ	2前			1			○		1							
	アスレティックリハビリテーションⅡ	2前			1			○				1					
	現場実習Ⅰ(見学実習)	1前・後			1				○	2	1	1					
	現場実習Ⅱ(評価実習)	2前・後			1					2	1						
	現場実習Ⅲ(スポーツ現場実習)	2前・後			1					2	1						
	現場実習Ⅳ(アスレティックリハビリテーション実習)	2後			1					2	1						
現場実習Ⅴ(総合実習)	3前			2					2	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 (作業療法学)	基礎作業療法学	作業療法概論	1前		2		○			1							
		研究法	3前		2		○							1			
		研究法演習	3後		1			○		2	1	1		4			
		作業療法研究	4通		3			○		2	1	1		4			
		作業分析学	1後・2前		2		○							1			
		作業技法(基礎)	2前		1			○						1			
		作業技法(編み物・陶芸)	2後		1			○						1			
		作業技法(革細工・籐細工)	2後		1			○						1			
	管理作業療法学	作業療法管理学	1後		2		○			1							
	学業評価学	作業療法評価学	1前		2		○			1							
		身体機能評価演習Ⅱ	2前		2			○						1			
		心理社会機能評価演習Ⅱ	2前		2			○				1		1			オムニバス
	作業治療学	作業治療学の基礎	4前		1		○			1							
		身体障害作業療法学	2後		1			○		1							
		身体障害作業療法学演習Ⅰ(脳血管障害・神経系疾患)	2後		2			○			1			1			オムニバス
		身体障害作業療法学演習Ⅱ(脊髄損傷・リウマチ)	3前		1			○						1			
		身体障害作業療法学演習Ⅲ(骨折・切断・内部障害)	3前		1			○						2			オムニバス
		精神障害作業療法学	2前		1		○					1					
		精神障害作業療法学演習Ⅰ(作業治療法)	2後		1			○				1					
		精神障害作業療法学演習Ⅱ(臨床関係論)	3前		1			○				1					
		発達障害作業療法学	2後		1		○							1			兼1
		発達障害作業療法学演習	3前		1			○						1			オムニバス
		高次脳神経障害学	2後		1		○				1						
		老年期障害作業療法学	2前		1		○				1						
		老年期障害作業療法学演習	3前		1			○						1			
		日常生活活動	2前		1		○							1			
		日常生活活動演習	2後		1			○						1			
		作業療法演習	4後		2			○		2	1	1		4			
		作業療法評価実習	2後		2				○	2	1	1		4			
		作業療法治療実習Ⅰ	3前		2				○	2	1	1		4			
		作業療法治療実習Ⅱ	4前		1				○	2	1	1		4			
		作業療法特論(基礎)	4前		1			○		1							
	作業療法特論(身体障害)	4前		1			○			1							
作業療法特論(精神障害)	4前		1			○				1							
作業療法特論(発達障害)	4前		1			○						1					
作業療法特論(老年期障害)	4前		1			○		1									
法地域作業療法学	地域作業療法学	3前		2		○										兼1	
	地域作業療法学演習	3前		1			○				1						
	生活環境整備演習	3前		1			○						1			兼1	
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	1前・後		2				○	2	1	1		4				
	臨床見学実習Ⅱ	3後		1				○	2	1	1		4				
	臨床評価実習	2後		3				○	2	1	1		4				
	臨床実習Ⅰ	3後		8				○	2	1	1		4				
	臨床実習Ⅱ	4前		8				○	2	1	1		4				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (言語聴覚学)	言語聴覚障害 言語聴覚障害 言語聴覚研究	言語聴覚障害概論	1前	2		○				1	1			兼1 兼1 兼1	※演習 オムニバス オムニバス オムニバス
		言語聴覚障害診断学演習	2後	1			○			1	2	3			
		言語聴覚研究方法論	3前	1			○			1	2	3			
		言語聴覚研究	4通	3				○		1	2	3			
	失語症・高次脳機能障害学	失語症学	2前	2			○				1			兼1 兼1 兼1	オムニバス オムニバス オムニバス
		高次脳機能障害学	2前	2			○				1				
		失語症評価演習	2通	2				○		1	1	1			
		高次脳機能障害評価演習	2後	1				○			1	1			
		失語症治療学	3前	2			○				1				
		高次脳機能障害治療学	3前	1			○				1				
	言語発達障害学	言語発達障害学	2後	2			○				1	1		兼1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
		言語発達障害評価演習	3前	1				○			1	1			
		言語発達障害治療学	3前	2			○				1	1			
		言語発達障害演習	4前	1				○			1	1			
	発声発語・嚥下障害学	病理音声学	2前	2			○			1		1		兼1	オムニバス オムニバス ※演習 オムニバス オムニバス
		発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	2前	2			○			1	1				
		発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	2後	2			○					1			
		発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	3前	4			○					2			
		摂食・嚥下障害学	2前	2			○			1					
		発声発語・摂食嚥下評価演習	2後	1				○		1	1	1			
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	2前	2			○					1		兼2 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス オムニバス オムニバス、※演習 オムニバス、※演習
		聴覚障害評価演習	2後	1				○				1			
		小児聴覚障害学	3前	2			○					1			
		聴覚障害治療学	3前	1			○					1			
聴覚補償学		4前	2			○					1				
臨床実習	臨床見学実習	1前・後	1					○	1	2	3		兼13		
	臨床評価実習	2後	3					○	1	2	3				
	臨床実習Ⅰ	3後	5					○	1	2	3				
	臨床実習Ⅱ	4前	7					○	1	2	3				
	小計(126科目)	—	0	202	0			—	6	7	3	9			



教育課程等の概要																	
(保健医療学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
一般教育科目	科学的思考の基盤	安全学	2前	2		○			1 1						兼1		
		教育原理	1前	2		○										兼1	
		教育方法論	1後	2		○										兼1	
		統計学	1後	2		○										兼1	
		情報科学	1前	2		○										兼1	
		人間工学	1後	2		○										兼1	
	人間と生活	心理学	1前		2		○			1		1				兼1	
		生命倫理	1前		2		○									兼1	
		英語Ⅰ	1前	2				○				1				兼1	
		英語Ⅱ	1後	2				○				1				兼1	
英語Ⅲ		2前		2			○				1				兼1		
英会話(医療系英会話)		1前・後		2			○				1				兼1		
スポーツ医学		2前		2		○									兼1		
スポーツ栄養学Ⅰ		2前		1		○									兼1		
体育Ⅰ	1前		1		○								兼1				
体育Ⅱ	1前		1				○						兼1				
社会の理解	フレッシュアップセミナーⅠ	1前	2			○			1					兼1	※演習		
	フレッシュアップセミナーⅡ	1前	2			○					1			兼4	オムニバス		
	人間関係論	1後		2		○						1			兼1		
	日本国憲法	1前		2		○									兼1		
	コーチング論	1前		2		○									兼1	オムニバス	
小計(21科目)		—	8	31	0	—			2	1	2	0	0	13			
専門基礎科目	と人体の構造	人体構造機能学Ⅰ	1前	2		○			1		1						
		人体構造機能学Ⅱ	1後	2		○						1					
		生化学	1後	1		○						1					
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療総論	1後	1			○			1						兼4	オムニバス
		疾病治療Ⅰ(外科)	1後	1			○									兼2	オムニバス
		疾病治療Ⅱ(整形・脳神経)	2前	1			○									兼4	オムニバス
		疾病治療Ⅲ(排泄・感覚・歯)	2前	1			○										
		疾病治療Ⅳ(呼吸・循環・血液)	1後	1			○					1					
		疾病治療Ⅴ(腎臓・内分泌・消化器)	2前	1			○					1					
		老年疾病治療論	2前	1			○					1				兼1	
		子どもの疾病治療論	2前	1			○									兼1	
		女性・周産期疾病治療論	2前	1			○									兼2	オムニバス
		こころの疾患治療論	2前	1			○					1					
	リハビリテーション医学治療学	2前	1			○								兼1			
	微生物学	1後	1			○								兼1			
	臨床栄養学	2前	1			○								兼2	オムニバス		
	薬理学	1後	1			○								兼1			
健康支援と社会保障制度	チーム医療論	3前	1			○			1						兼1		
	看護と法律	2前	1			○											
	保健予防活動論	2前	2			○											
	環境と健康	1前	1			○									兼1		
	生涯発達心理学	1後	2			○						1					
	健康教育論	1後		1		○									兼1		
	社会福祉学	1前		1		○									兼3	オムニバス	
小計(24科目)		—	27	1	0	—			3	1	1	0	0	兼19			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	基盤看護学	看護の基本となる概念	1前	1			○			1						
		看護の過去と未来	1後	1			○			1						
		生活を支える看護Ⅰ	1前	1			○			1		2	1			
		生活を支える看護Ⅱ	1後	1			○			1		2				
		看護コミュニケーション	2前	1			○					1				
		看護実践力Ⅰ	2前	1			○			5	1	3	1			
		診療・検査に伴う看護	1後	1			○			1		2				
		薬物と看護	1後	1			○			1		2				
		生命を護る看護	1前	1			○			1		2				
		看護管理	4前	1			○			1						
		看護と医療安全	2前	1			○					1				
		キャリア開発入門	1前	1			○					1				
		看護研究方法	3前	1			○					1				
		看護研究Ⅰ	3後	1					○	8	2	3	4			
		看護研究Ⅱ	4通	2					○	8	2	3	4			
発達領域別看護学	女性のライフサイクルと看護	母子の健康と看護Ⅰ	2後	1			○			1			1			
		母子の健康と看護Ⅱ	3前	2			○			1			1			
		子どもの成長発達と看護	2前	1			○			1						
		子どもの健康障害と看護Ⅰ	2後	1			○			1						
		子どもの健康障害と看護Ⅱ	3前	2			○			1						
		思春期健康論	2後		1		○			1						
		大人の健康と看護	1後	1			○			1						
		高齢者の健康と看護	1後	1			○					1				
		健康課題をもつ高齢者の看護	2前	1			○					1				
		高齢者の生活支援と看護	2後	1			○			1						
		発達領域別看護学	地域の人々の理解	地域で生活する人々の健康と看護	2前	1			○			1				
在宅生活を支える看護Ⅰ	2後			1			○			1			1			
在宅生活を支える看護Ⅱ	3前			2			○			1			1			
こころの健康と看護	2前			2			○			1						
こころの疾患の理解と看護Ⅰ	2後			1			○			1			1			
こころの疾患の理解と看護Ⅱ	3前			1			○			1			1			
周手術期看護	2後			1			○			1						
リハビリテーション看護	2後			1			○			1						
生活再構築を支援する看護	3前			1			○			1						
エンド・オブ・ライフケア	3前			1			○			1						
クリティカルケア看護	3前			1			○			1						
看護理工学	2後				1		○			1						
医療的ケア	3前				1		○			1						
看護実践力Ⅱ	2後			2			○			5	1	3	1			
看護実践力Ⅲ	3前			2			○			5	1	3	1			
認知症看護援助論	3前				1		○			1				1		
家族看護学	3前			1			○					1		1		
国際看護学	3前	1			○			1								
専門職連携論	2後	1			○			1	1							
災害看護学	3前	1			○			1								
臨地実習	看護体験実習	生活支援実習	2後	2					○			2				
		対象理解の実習	1前	1					○			3	1	1		
		育成期看護学実習Ⅰ(周産期)	3後・4前	2					○			1		1		
		育成期看護学実習Ⅱ(子ども)	3後・4前	2					○			1		1		
		老年看護学実習	3後・4前	2					○			1		1		
		広域看護学実習	3後・4前	2					○		1			1		
		周手術期看護実習	3後・4前	2					○		1					
		生活再構築看護実習	3後・4前	3					○		1					
		エンド・オブ・ライフケア実習	3後・4前	2					○		1					
		精神看護学実習	3後・4前	2					○		1			1		
		看護統合実習	4前	2	1				○	3		2	2			
小計(59科目)	—	73	5	0	—	—	—	8	2	3	4	0	兼0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
養護科目	学校保健	2後			2	○										
	養護概説	3前			2	○										
	健康相談活動の理論及び方法	3前			2	○										
	食品学	2前			1	○										兼1
	教職概論	1後			2	○										兼1
	学校経営論	3前			2	○										兼1
	特別支援教育論	2後			2	○										兼1
	教育課程論	2後			2	○			1							
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前			2	○										兼1
	道德教育指導論	3前			2	○										兼1
	生徒指導論	3前			2	○										兼1
	教育相談	2後			2	○										兼1
	養護実習	4通			5			○			1					
	教職実践演習（養護教諭）	4後			2			○		1	1					
小計（14科目）		—	0	0	30			—	1	0	1	0	0		兼7	
合計（118科目）		—	108	37	30			—	11	3	6	4	0		兼37	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
看護師国家試験受験資格の取得						1学年の学期区分			2期							
一般教育科目 24単位（必修14単位、選択10単位）						1学期の授業期間			15週							
専門基礎科目 27単位（必修27単位）						1時限の授業時間			90分							
専門科目 74単位（必修70単位、選択4単位）																
合計 125単位（必修111単位、選択14単位）																
履修科目の登録上限 46単位（年間）																

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療学特論	<p>（概要）保健医療学は、人々の生涯を通じての健康管理を補助し、疾病時には早期の健康回復を促す為の最適な援助方法を研究する学問、つまり人々の健康を維持・向上させるための方法を実践的に提供すること目標とする学問である。また、生涯を通じて健康的な生活を送るには、日常生活のみならず社会生活を活動的に送ることが必要となる。現在、就労人口の減少により、障害者や高齢者が働ける社会の実現が求められており、障害者や高齢者の就労支援に対する取り組みは、保健医療分野においてこそ取り組むべき課題である。</p> <p>この保健医療学特論では、保健医療学の重要性と役割、およびそれを実践する上で考慮すべきリスクと、その基礎となるリハビリテーションと看護の融合・展開について、プレゼンテーションやディスカッションを交えて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>①小林康孝／全4回）保健医療学の重要性やそれに伴うリスク要因、障害者や高齢者の就労におけるリスク要因について学ぶ。</p> <p>②林浩嗣／全4回）保健医療学におけるリハビリテーションと看護の融合とその展開について学ぶ。</p>	オムニバス方式
共通科目	生活支援リハビリテーション特論	<p>（概要）地域包括ケアシステムの確立と維持に向けて、幅広い観点で対象者の障害受容及び就労支援に取り組むための生活支援に関する理論を理解する。具体的には職業準備ピラミッド等である。また、地域リハビリテーションにおけるマネジメントの概要を理解し、連携推進者として必要な能力を培うことを目標とする。（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>①小林康孝／全3回）SDGsの目標達成に向け、障害者が積極的に社会に参加・貢献できる共生社会を実現させるために、医療者にとって必要な支援方法について教授する。さらに、高次脳機能障害者の支援の実際を例に、グループワーク形式の議論を行う。</p> <p>（6堀秀昭／全3回）超高齢化社会を迎え、SDGsの目標達成に向け健康寿命の延伸が叫ばれている。高齢者が元気で長生きし、積極的に社会に参加・貢献できる共生社会を実現させるために、医療者にとって必要な支援方法について教授する。さらに、「自助」「互助」の考え方を含めた介護予防の実際の例を、グループワーク形式の議論を行う。</p> <p>（14川端香／全2回）障害者や高齢者が社会の中で役割を果たすための支援の視点として用いられる、職業準備性ピラミッドの考え方をもち、地域での社会復帰支援を統括的にマネジメントできる能力を身に付けられる様、その内容を教授する。また、ピラミッドに含まれる対人技能と基本的労働習慣、職業適性に関しては、その評価方法について実例を用いて議論する。</p> <p>⑤吉江由加里／全4回）地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの概念及び地域リハビリテーションのサービスとその特徴について教授する。また、リハビリテーションの質改善におけるエビデンスの活用に組織的に取り組むための方法を教授する。さらに地域連携推進者育成に向けて、組織マネジメントの基礎知識とコンピテンシーとその育成方法について教授する。</p> <p>⑦近田真美子／全3回）職業準備性ピラミッドにおける対象者の健康管理と日常生活管理に必要な知識と実際について、主に障害者の服薬管理や症状管理を含むセルフコントロール等について教授する。また、チームマネジメントを高める方法について、ファシリテーション技法や多様な対話手法について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究デザイン特論	<p>（概要） 研究をデザインする上で必要な知識を学修し、研究倫理・研究公正に基づいた適切な評価・判断能力を修得する。研究者個人および研究に関わる集団としての研究倫理、生命を対象とした研究に関する倫理指針を理解するとともに、研究計画の立案から、研究資金獲得、データの取り扱い、共同研究、研究結果の発表に至る一連の研究活動について研究公正が求められる事項について理解する。これら知識を基盤として、大学・企業研究者の研究デザインの実例について学修して議論を深め、独立した研究者としての責任ある研究活動を実施していくための素地を培う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （13塩見格一／全6回）</p> <p>研究公正（研究計画、公的研究資金の獲得と適切な使用、クラウドファンディング、データの取り扱い、統計処理、企業との共同研究・利益相反、研究における不正事例）、研究デザインの実例（医療工学的な研究開発の実例、予防安全技術に関する研究開発の実例） （17猪口徳一／全7回）</p> <p>ガイダンス、研究倫理（研究者に必要とされる倫理的意思決定、歴史・事例から学ぶ、研究チームの構築と研究体制、集団としての研究倫理、ピア・レビュー、動物実験における生命倫理）、研究成果の発表と公表、研究デザインの実例（健康増進に関わる解剖生理学的研究の実例、再生医療などの先進医療研究の実例） （18米田誠／全2回）</p> <p>研究倫理（ヒトを対象とした研究における研究倫理）、遺伝子医療、研究デザインの実例（脳発達や脳機能に関する研究の実例）</p>	オムニバス方式
専門科目	医学的診断技術研究	<p>（概要） 対象者の問題点を医学的観点から捉える方法を学ぶ。対象者の障害を栄養管理学的観点、健康管理学的観点、精神科学的観点を通して診断する技術を理解する。栄養学的診断技術、生化学的診断技術、精神症状学に対する評価診断的技術を学び、対象者の生活を支援できる医療者となることを目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） ②林浩嗣／全5回）</p> <p>対象者の障害を栄養管理学的観点から捉え、栄養障害、栄養の基礎科学、栄養状態の評価、栄養管理について十分に理解したうえで栄養状態を正しく評価し、障害者の生活を支援できる医療者になることを目指す。</p> <p>（4小俣直人／全5回）</p> <p>精神症状学を十分に理解したうえで、生物学的な側面も併せて精神状態を正しく評価し、各精神障害者が社会に貢献していることを実感できるような支援を行える医療者となることを目指す。</p> <p>（5供田文宏／全5回）</p> <p>心血管系疾患（脳血管障害や心臓病）は、本邦の主要な死因であるとともに身体機能障害や寝たきり状態の要因である。講義では、生命予後の改善と要介護状態の回避を目的に、心血管系疾患の最大のリスク要因である生活習慣病を健康管理学的観点から捉え、主に評価診断的技術を学ぶことで生活習慣病の予防対策を立案することを旨とする。</p>	オムニバス方式
専門科目	ニューロリハビリテーション研究	<p>（概要） 視覚認知や注意や記憶などの認知機能の神経基盤を探るため、特に脳イメージングに焦点を当てた方法論と最新知見を学ぶ。さらに対象者の障害を、筋電図や動作解析の観点から学ぶことで、評価診断的技術の向上を図る。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） ①小林康孝／全3回）</p> <p>ニューロリハビリテーション総論、脳画像解析に必要な解剖、核磁気共鳴画像法（fMRI） （14川端香／全6回）</p> <p>高次脳機能と脳画像、近赤外分光法（fNIRS）、画像解析方法 （15藤田和樹／全6回）</p> <p>生体運動分析（筋電図・三次元動作解析）</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	生活支援研究	<p>（概要）1，対象者の問題点を生活支援の観点から捉える方法を学ぶ。対象者を取り巻く問題点は幅広く、社会保障の観点や、就職支援の観点、その対象者が社会に適応するときのインフォーマルな観点等、取り巻く環境を調査する手法について理解を深める。また対象者の問題点をとらえる手法として、物語的（ナラティブ）に生活を評価し、対象者の生活を支援できる医療者となることを目指す。</p> <p>2，対象者の生活の支援を目指すために、まず人々に起こっている問題の抽出の方法から、多分野（リハビリテーション学と看護学ならびに理学や工学、リハビリテーション関連機器）の学問領域との連携方法と新たな技術開発までの過程を教授する。問題の抽出に当たっては、学生主導で行い自ら考えだす力や、教員や他の受講者との対話から、事象を柔軟にとらえる力を養うことを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）                      （6堀秀昭／全4回）                      対象者を包括的にとらえ取り巻く問題点を抽出する方法について教授する                      （7石田圭二／全4回）                      対象者の問題点をナラティブな手法を用いてとらえる。またリハビリテーション関連機器の実践、その評価方法について教授する                      ④藤本昭／全4回）                      就労支援を必要とする対象者の現状と課題を理解し、就労支援の制度・サービス等の実際について教授する                      （10北川敦子／全6回）                      対象者の生活の支援を目指し、看護理工学的手法を用い、問題の抽出からシステムおよび製品開発とその評価方法について教授する</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援リハビリテーション特別研究	<p>（概要）研究指導教員の指導のもと、研究計画の立案・実施・解析・博士論文作成までの一連の過程を指導する。</p> <p>（1山口明夫）                      癌により日常生活や社会生活に制限を受ける患者の、病態解釈に関する基礎研究や、生活再構築から社会復帰へ向けての包括的なアプローチの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>（①小林康孝）                      中枢神経疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害を有する患者が、自立した日常生活を送り、安全性・生産性をもった社会活動を営むために必要な、新しい医療技術の開発や支援体制の確立に関する研究指導を行う。</p> <p>（②林浩嗣）                      脳血管障害、神経変性疾患、認知症などの中枢神経疾患により障がいをもった者の栄養状態を調査し、身体機能や日常生活動作の維持に寄与するようリハビリテーションに関する研究指導を行う。</p> <p>（4小俣直人）                      精神障がい者が、社会への貢献も含めた自立的な生活を送れるようになる実践的な取り組みについて、精神疾患に関する生物学的あるいは精神病理学的な視点も鑑みながら立案し、本学および関連機関にて実施する。データを収集し、分析・考察して論文作成の指導を行う。</p> <p>（5供田文宏）                      近年増加の一途を辿る生活習慣病の予防と克服のため、地域を拠点とした生活習慣改善の取り組みと実践について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。</p> <p>（6堀秀昭）                      障がいを持った者が社会に戻るための環境を調査し、身体機能の維持・向上、健康寿命の延伸に寄与するような支援方法や社会資源の活用に関する研究指導を行う。</p> <p>（③佐藤万美子）                      脳血管障害による身体障害者や高次脳機能障害者が、入院生活から社会へ戻り、さらには職業復帰するにあたり障壁となる要因を科学的に分析し、それに対する新しい支援技術を開発する研究指導を行う。</p> <p>（10北川敦子）                      創傷関連に起因する健康障害を主軸に置きながら、慢性疾患など生活に影響をもたらす疾患をもつ対象者とその家族が積極的な社会参加を実現するための新しい支援策の開発から臨床評価、さらにこのエビデンスを用いた実装研究に関する指導を行う。</p> <p>（⑥寺島喜代子）                      さまざまな健康障害や機能障害を有して病院や高齢者施設、在宅などで過ごす高齢者の健康支援や家族、職員が直面する課題などに関して、文献検討を重ねて自己の研究疑問を明確化し研究計画を立てる。倫理審査の承認を得て、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（13塩見格一）                      パソコンやタブレット等を利用した一般的な、また独自のパフォーマンステスト及び、音声分析技術を利用した疲労及びストレスの定量化技術の研究開発を基に、障がい者を含む被験者の日常生活における様々なワークロードの分析とその低減に関する研究指導を行う。</p> <p>（14川端香）                      後天性脳損傷による高次脳機能障害を有する患者を対象とし、病態解釈に必要な脳機能に関する基礎研究や、自己認識の促進と社会生活の改善に寄与するよう新たなリハビリテーションの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>（15藤田和樹）                      神経疾患を有する患者や虚弱高齢者の運動機能障害に対して、生体運動解析を基盤に障害構造を解明し、根拠に基づく予防・治療法の考案および開発に関する研究指導を行う。</p> <p>（17猪口徳一）                      人体の発生と発達の仕組みについて、最先端の知識と研究技術を修得し、それを基盤として独創性の高い基礎医学研究を推進できる研究者の育成を行う。生化学的解析、遺伝子発現データ解析、遺伝子操作技術などを用いて未知の生体システムを研究することで、エビデンスに基づく医療の推進や、再生医療に向けた新たな生体機能の解明に関する研究指導を行う。</p>	

学校法人新田塚学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福井医療大学				福井医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
リハビリテーション学科	120	-	480	リハビリテーション学科	120	-	480	
看護学科	60	-	240	看護学科	60	-	240	
計	180	-	720	計	180	-	720	
福井医療大学大学院				福井医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻(M)	10	-	20	保健医療学専攻(M)	10	-	20	
				保健医療学専攻(D)	3	-	9	課程変更(認可申請)
計	10	-	20	計	13	-	29	